

アルコール健康障がいに関するアンケート 集計結果

1

アンケートの概要

1. アンケート期間

2024 年 10 月 24 日（月曜日）から 2024 年 11 月 8 日（金曜日）まで

2. アンケート目的

主に内科等の身体科治療を行っている病院が飲酒のコントロールが難しい患者に対してどのように対応されているか、現状と意見を把握し、南河内精神医療懇話会においてアルコール健康障がいにおける医療機関等の連携を推進するための方策を検討する際の資料とする

3. アンケート方法

南河内二次医療圏域にある、医療法第1条の5第1項において定められている病院（20床以上の有床）に対して、郵送またはメールでアンケートへの回答を依頼

4. アンケート回答状況

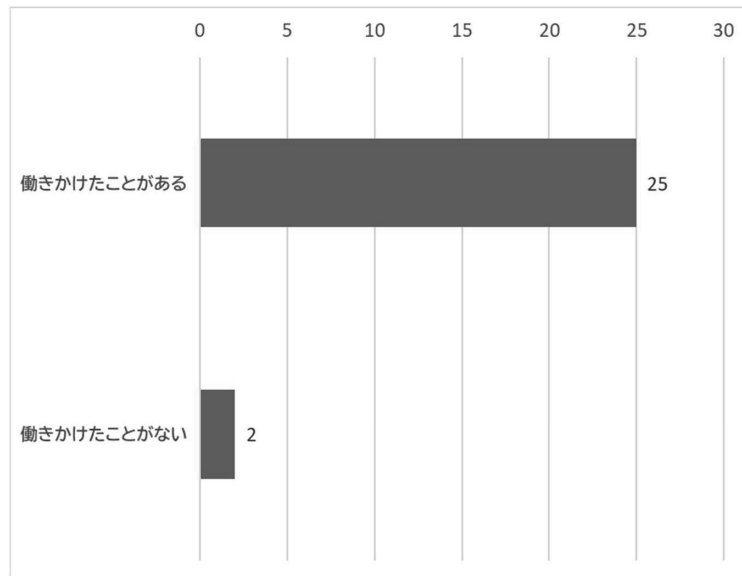
アンケート総依頼数：30 病院

回答病院数：27病院（回答率90%）

2

アンケート集計結果

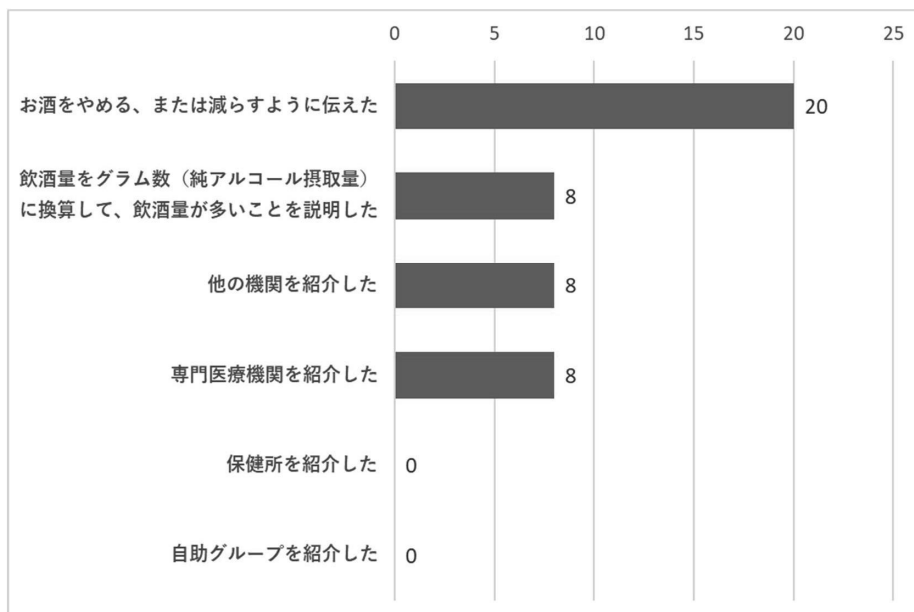
【設問1】 飲酒のコントロールが難しい状況にある患者に対して、お酒をやめたり、減らすように働きかけたことはありますか。



働きかけたことがあると回答した病院が9割以上となっている。

3

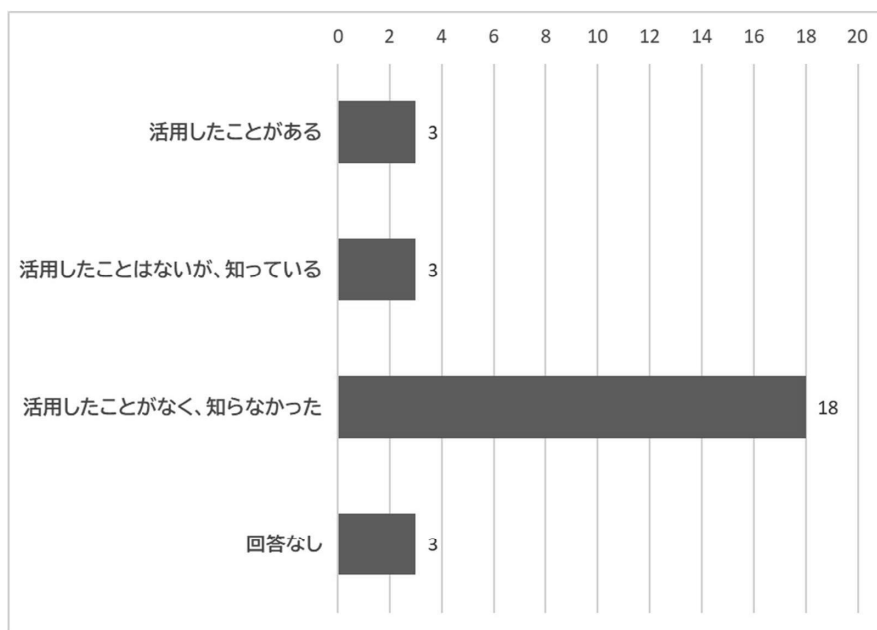
(「働きかけたことがある」と回答した場合)どのようなことをしましたか。
(複数回答)



「お酒をやめる、または減らすように伝えた」が最も多く、飲酒量をグラム数に換算して伝えたと回答した病院も8か所あった。

4

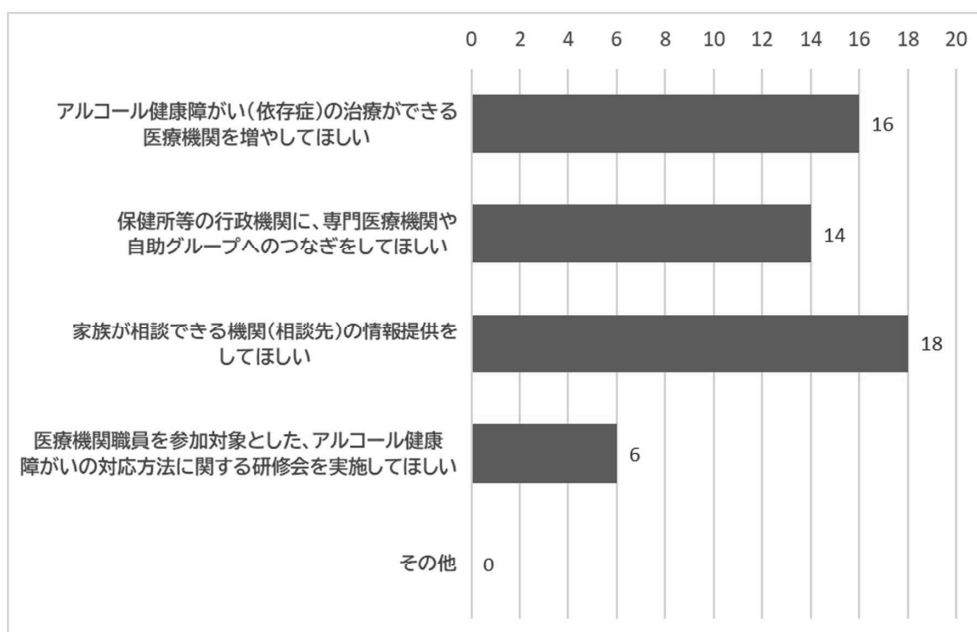
【設問2】 AUDITを診療場面で活用されたことがありますか。



AUDITを活用したことがなく、知らなかったと回答した病院が多数であるが、活用したことがあると回答したところも3か所あった。

5

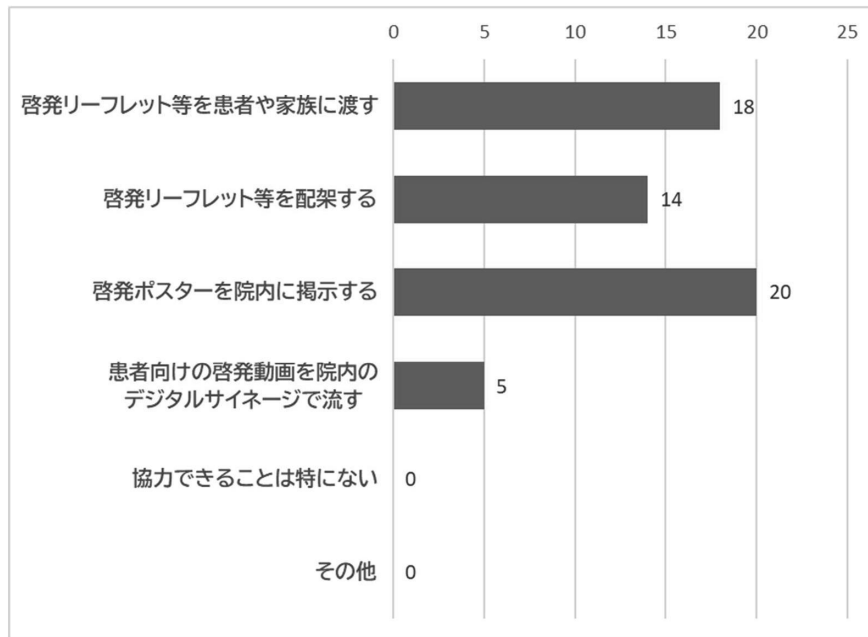
【設問3】 どういう方策があれば、飲酒のコントロールが難しい患者が断酒や減酒することにつながるとお考えですか。(複数回答)



家族が相談できる相談先の情報提供をしてほしいと回答した病院が最も多かった。

6

【設問4】アルコール健康障がい対策をすすめるにあたり、貴院でご協力いただけることがありましたら、選択してください。(複数回答)



啓発にはすべての病院が協力できると回答されており、ポスター掲示、リーフレットを患者や家族に渡すという回答が多くあった。

7

【設問5】飲酒のコントロールが難しい患者への対応や他機関との連携について、課題に感じておられることや、ご意見を記入してください。

※事務局で一部修正して掲載

- ・患者本人がアルコール依存状態について治療の意思がないので、相談や紹介ができない。
- ・夜間救急で搬送されてこられた場合、家族等の付き添いがない場合、診療が十分にできない可能性がある。
- ・患者さんの協力を得るのが難しい、他機関との連携ルートが構築されていないこと、退院後のフォローアップの体制が不足している。
- ・依存症の専門医を探すのに苦労している。
- ・精神科病院へ相談してもすぐに対応してもらえないところが多いので、転院相談に苦慮している。
- ・ルールが守れない、我儘な振舞いがある人もおられ、診療したがいらない医師も多い。どうしても一部の医師に患者が集まることになり、その医師に負担が増えてしまうのが問題とを感じる。
- ・飲酒状態で受診に来る患者から暴力行為がある。

依存症治療について患者本人の意思がない場合や、酩酊状態の方への対応の難しさを感じていること、また、酩酊状態の方に対応した時のマイナスなイメージが現在の診療にも影響していることが窺える。

8